

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 38 2016年2月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nf-staff@netlive.ne.jp

<http://nofence.jp/>

INDEX

2月13日・千葉優美子(高政美)さん証言集会報告 2

紹介：14団体による国連への共同要請文 8

NO FENCE 声明：北朝鮮当局による核・ミサイル実験をふまえ、
あらためて強制収容所廃絶を訴える 10

NO FENCE 総会を4月16日(土)に開催します

日時：2016年4月16日(土) 時間未定

会場：人権ライブラリー4階会議室

〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F

電話 03-5777-1919

今年もゲスト講演者をお招きする予定ですが、まだ調整中です。

詳細が決まり次第お知らせします。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

2月13日・千葉優美子（高政美）さん証言集会報告

代表 小川晴久

2016年最初のNO FENCE集会は2月13日午後、大阪から脱北者千葉優美子（高政美）さんをお招きして貴重な体験をお話しいただいた。そのなかから4つのことをお伝えし、内容を確認するために後日電話でお聞きしたことを追記としてお伝えしたい（文責は小川晴久）。

1. 日本からの帰国者は7ランクに分類された。日本人妻は最下位

1963年10月8日、3歳のとき両親とともに日本から北朝鮮に移住し、2000年に脱北した千葉優美子さん。講演ではまず、日本人妻の悲惨な境遇から語り始めた。

日本からの帰国者は7ランクに分類され、日本人妻と貧乏人は最下位に分類され、山中に住まわせられた。

1997年から1998年にかけて日本人43名が3回に分けて里帰りをした。千葉さん一家は中国に接する国境沿いの都市・新義州に住んでいたが、新義州から3人の日本人妻が候補に選ばれた。この3人は結局誰も里帰りできなかったのであるが、受けた事前の教育のなかに、最後に恐怖教育と呼ばれるものがあった。里帰り中に約束を破り北朝鮮の真実などを語った場合、公開処刑や恐ろしい強制収容所に入れられるぞと、その恐ろしい実態を映像で知らされたというものであった。

強制収容所の存在と実態が記録映像で一部の市民に知らされていた事実が初めて紹介されたのである。

2. 管理所に「政治」という規定が付いたのは1971年

お父さん（継父）から聞いた話として、1969年から1971年の間に「政治」という言葉を冠した収容所ができたという証言があった。内地人と外国人を分けて、外国人だけを入れる収容所を政治管理所と名づけたという。

初めて聞く話であったので、元国家保衛部の役人で脱出した尹大日の本『国家安全保衛部の内幕』（原書）をひもといてみた。その73ページ末尾に、「北朝鮮内部では政治犯収容所を“政治犯管理所”と呼んでいた」とある。管理所という名称の



収容所はその前からあったのであろう。1969年から1971年頃にかけて政治犯だけを入れる管理所が別にできたのであろう。

思い出されるのは金龍さんの証言（『月刊朝鮮』2000年5月号）で、金炳夏という人物がこの時期に今のような政治犯収容所を作ったことで評価され、1973年に国家保衛部の部長に任命され、以後10年間君臨したことである。今のような強制収容所は1973年から始まったといわれている。拙書からその部分の証言を引用してみよう。

「国家安全部が運営する政治犯管理所は、1972年、前国家政治保衛部長、金炳夏（河）の発議と金日成の教示によって設立された。1968年、黄海南北道の軍事分界線付近（主に開城、金川、龍淵、長淵、安岳、殷栗、翠野、長豊、開豊、板門など）に居住していた越南者（筆者注・韓国に移った者）（の）家族と、6.25戦争（筆者注・朝鮮戦争）当時、治安隊加担者、韓国軍やアメリカ軍に協調した者、地主、親日派など、そのときまで生き残った本人および家族たちを、北の住民たちと交換するという口実で、貨物車に乗せ、12箇所の険しい山岳地域に設定しておいた特殊区域に、大々的に移住させた。

そこに強制移住させ、外部との接触はもちろん、通信のやり取りなど社会と完全に遮断したのである。

その頃は収容所の形態を完全にもっていたのではなく、収監者官吏と施設の運営は、社会安全省安全課が担当した。隔離収容された人々のうち、本人に限って罪が

重いと分類された者たちは、价川教化所と清津にある輪城教化所を政治犯教化所に改造して、ここに別途に収容したものが、政治犯管理所のはじまりである。ところが脱出者が続出し、大規模な暴動が発生したため、警備統制もいっそう強化されはじめ、今日の形態となったのである。」(『北朝鮮 いまだ存在する強制収容所』草思社、54～55 ページ)

千葉さんのお父さんが千葉さんに語ったなかでもうひとつ重大なことは、内地人の朝鮮人と外国人を区別して、後者だけを収容する収容所を作り、それに政治(政治犯のことであろう——小川)という名称を冠したというのである。元警備員・安明哲氏の有名な証言(1968年頃、収容所内部で暴動が発生したので、金日成が徹底的に彼らを叩きつぶせという教示を発した)とも一致する。また1972～73年頃、在日帰国者たちが無差別に(マグジャビ)逮捕されたことがあったという張明秀氏の指摘とも符合する。

今日のようなひどい強制収容所は1972年に作られ、金日成の神格化・絶対化に反対した在日帰国者たちを収容する施設として作られ、政治という規定を付した政治(犯)管理所と命名されたことが、千葉さんのお父さんの証言と金龍氏、尹大日氏の証言で明らかになったのである。とりわけ千葉さんの今回の証言は重要である。日本から60年前に北に移住した在日帰国者たちが、1967年5月を期して始まった金日成の神格化に猛反対して、彼らを取り締まるために大規模な強制収容所が作られたという可能性が考えられる。

3. 日本人は四つん這いで働かされていた

2月13日の千葉優美子(高政美)さんの証言のなかで、初めて聞く奇異なことがひとつあった。

お父さんは1963年10月に帰国し、長男が清津で「船から降りない、日本に戻る」と主張して49号病院に入れられてから、1ヵ月間お父さんは思想教育を受け、1965年から通訳の仕事させられていく。そのお父さんが特に上記マグジャビを体験してからであろう、日本から帰国した人々の家を周り、謝罪してまわったという。彼が日本からの帰国を説得した人々に対する謝罪であろう。千葉優美子さんも時折お父さんに付いて行って目撃したのである。

お父さんは朝鮮労働党への入党をしきりに勧められたが、それをかたくなに拒否したという。それが理由であろう、1976年3月、突然父がいなくなった。後でわかったことであるが、国家保衛部の収容所の独房(1メートル四方)に入れられ、煉瓦づくりをさせられていて、まもなく処刑される運命にあった。

ところがお父さんの後輩で、総連中央の幹部で北を頻繁に訪問していた人が、お父さんに会おうとした。お父さんが大変な事態にあることを知り、八方手を尽くし、お父さんは数ヵ月後の8月31日に家に帰ることができた。しかしお父さんの身体は、1995年頃飢えで死んだ人々の死体と同じで、臀部の部分もごっそり取れるくらいひどい有様であったという。

そのお父さんがやがて娘の優美子さんに語ってくれた話が、今回の証言集会で語られた政治犯管理所の成立に関する話であった。

お父さんから聞いた話のなかで、収容所の中で朝鮮人の犯罪人は立って働くことを許されていたが、日本人は四つん這いになって働かされていたという。咸鏡道の地下でトンネルなどを掘らされていたときの話であるというが、いつごろの話かは語られなかった。

ここに言う日本人とは、日本の敗戦後に北朝鮮に残っていた日本人やその子孫と思われる。彼らは番号札を背中に付けていたという。四つん這いになって働かされるから、背中でないと判別できないからである。日本人は人間以下と見なされたのであろう。

2月13日の千葉優美子さんの四つん這い発言は初めて聞く話なので、会場で聞いたときはショックであった。お父さんは1993年4月に他界、お母さんも1991年に他界されているので、千葉優美子さんからももう少し詳しく聞く必要がある*。

在日の受難——1972～73年のマグジャビ事件　お父さんが優美子さんに語ったなかに、1972～73年ころ金日成が息子の金正日に、日本からの帰国者が革命化できていないので、おまえにプレゼントする、彼らを革命化せよという指示があったという。

会員の皆さま

★メールアドレスをお知らせください★

集会の予定などをメールでもお知らせしますので、
下記にメールをお送りください。

nofencekorea@gmail.com

1980年の第6回朝鮮労働党大会で金正日が後継者に決まった。この世襲に反対した労働党員たち（6千人～1万5千人）を捕らえ、新たに4つの強制収容所を1982年頃に作ったことが知られている。北朝鮮の強制収容所は何も在日帰国者を中心に作られ、機能しているわけではないが、1970年代は在日帰国者の管理のために大規模な強制収容所が作られ、機能していた可能性が高いことが、今回の千葉優美子さんの証言で考えさせられた。

4. 日本人は朝鮮総連に対する認識がとても甘い。早く解体しなければ！

証言集会が始まる前の30分くらい、当日千葉さんが持参された朝鮮総連芸術団（子どもたち）が今年1月、北朝鮮政府と労働党員たちの民衆の前で演じた、金日成・正日・正恩を称える歌舞のビデオが会場で披露された。それをふまえ、千葉優美子さんが講演の最後に訴えられたのは、以下のことであった。

今も総連は在日の子どもたちにこのような教育をしている。何も知らない小学生たちに、北の体制を称えるような、全く心のない教育をしている。大阪では毎週火曜日に総連大阪府本部が府庁の前で、朝鮮学校に対する補助金を復活しろというビラまき活動をしている。朝鮮語教育は北朝鮮の体制を礼賛する教育とは別の場所でおこなわれる必要があり、礼賛教育をする民族学校への日本国民の税金による援助は即刻中止されなければならない。朝鮮総連が無くなれば、金正恩の片腕が無くなることだ。朝鮮総連に対する日本人の見方は優しすぎる。私は母親の立場から断じて許すことができない。心ないことをなぜ在日の子どもたちにさせるのか。純粋な子どもたちに2つや3つの顔を持たせるような残酷なことをなぜさせるのか。私たちが経験したようなことを二度とさせたくない。

この叫びで千葉さんは訴えを終えた。

〈追記〉

前記*印にもとづき、2月23日朝9時すぎ、電話で千葉優美子さんに“四つん這い労働”について尋ねてみた。いつ頃の話かを正確につかみたかったのである。電話は1時間45分に及んでしまった。確認できた重要なところを、以下に補充としてお知らせする。

いつ頃見た話か：1965年から1966年頃である。前記したようにお父さんは1965年から通訳をさせられた。

場所はどこか：咸鏡北道の地下トンネル工事現場。

四つん這い労働をさせられた日本人とはどんな人たちか：1955年当時北朝鮮に

住んでいた日本人全員。金日成が起こした朝鮮戦争は1953年7月休戦を迎える。事実上金日成側の敗北である。その責任追及として金日成は、戦争中に南に逃げた越南者の家族や、南に協力した者たち、休戦ラインに接して住む者たちを、北の山の中に移住させたが、その一環として、当時北朝鮮に住んでいた日本人を全員、咸鏡道の山の中に移住させ、隔離し、強制労働させた。

お父さんから聞いた話として、電話で詳しく話して下さった。私（小川）は国際基督教大学（ICU）で朝鮮近現代史を十数年教える機会をもち、朝鮮戦争の本も何冊も読んだが、このようなことはどこにも書かれていない。千葉さんのお父さんが1965～66年頃、地下トンネル工事の現場に通訳として行かされ、そこで四つん這い労働を目撃し、娘である千葉優美子さんに、ある月の明るい夜、涙を流しながら語ってくれた。その証言が、先日2月13日に語られ、後日電話で詳しく話して下さって、闇に葬られるのを救ってくれたのである。

2月13日の集会で聞いたとき、四つん這いを強いられた日本人は、当時北朝鮮に住んでいた日本人の一部であるのか、と考えたが、後日の電話で、当時北に住んでいた日本人全員であったという。後に千葉さん一家が北に帰国し、中国との国境沿いの北朝鮮第二の都市、新義州に住むのであるが、新義州には朝鮮戦争当時もたくさん日本人が住んでいたという。そして四つん這い労働は同じ政治犯の朝鮮人にも見せつける思想教育としてもおこなわれたという。

千葉さんは、今日あるような北朝鮮のひどい強制収容所の原型は1955年に始まっていると考えておられる。このときの収容所は日本人だけでなく、越南者の家族や韓国に協力した北朝鮮人も一緒に収容されていたが、その間に立ち居労働と四つん這い労働の差が実行されたという。これが事実だとすれば、いわゆる日本人の遺骨問題も、強制収容所と密接に結びついてくる。1955年以降隔離された山の中の強制収容所の中に、日本人の遺骨はたくさん埋められていることになる。

千葉さんの証言（千葉さんのお父さんの証言）はとても重要なものであるが、そのなかでも1955年の在日日本人全員の山中への隔離と強制労働（四つん這い労働）の証言がいちばん重要なものではないかと思う。1959年12月14日から1984年まで続く帰国事業で日本から移住した在日帰国者と日本人伴侶も外国人として差別されていく歴史は、1955年に始まっていることを示唆してくれてもいるからである。研究が急がれる証言である。

紹介： 14 団体による国連への共同要請文

2016 年 2 月 15 日

国連人権理事会理事国並びにオブザーバー国 御中

北朝鮮決議——人道犯罪の刑事責任追及が重要

来る第 31 回国連人権理事会で採択される北朝鮮決議において、人道犯罪の刑事責任追及のための専門家パネル設置に賛同するよう、貴国政府に求めます。

ご案内の通り、北朝鮮の人権に関する国連調査委員会（COI）は 2014 年に、殲滅・殺人・レイプ・意図的飢餓・強制失踪を含む人道に対する罪が、「国家最高レベルの政策に基づき」行われてきたと認定しています。

国連調査委員会（COI）は、重大な人権侵害の責任者への刑事責任追及の重要性を強調しました。また国連安全保障理事会は、北朝鮮の過酷な人権状況を 2 年連続で正式議題として討議するなかで、事態の重大性を認識しました。これは国際刑事裁判所（ICC）付託を実現するための、たいへん重要なステップだと考えます。

国連人権理事会は過去の決議で、刑事責任追及の必要性を強調してきました。そして第 30 回総会のパネルディスカッションでは、国連人権高等弁務官や多くの国々が同様に、刑事責任追及を求めました。

国連北朝鮮人権状況特別報告者は、国連総会に提出した最新の報告書の中で、刑事責任追及にむけた具体的勧告を行う専門家パネルの設置を求めました。

国連安全保障理事会で様々な政治的思惑が錯綜していますが、国際刑事裁判所（ICC）付託の推進は国際社会の優先課題であるべきです。しかし国際刑事裁判所（ICC）付託が実現した場合でさえ、北朝鮮が何十年間も野放し状態だった現実に対処するため、より包括的な刑事責任追及戦略が必要不可欠となります。

添付した説明資料は、私どもが提案する専門家パネルに関する、主要な質問に答えたものです。ご覧になると分かるように、専門家パネルの業務は国連人権高等弁務官ソウル事務所を補完するものであっても、重複するものではありません。国連人権高等弁務官事務所の持つ専門知識を引き出し、人的資源活用の非効率を最小限に抑えます。これまで国連人権理事会が行ってきた刑事責任追及の取り組みを現実化する、確かな足がかりを作るでしょう。むろん決議採択の足を引っ張るものではありません。

国連調査委員会（COI）勧告を意義あるものにし、前進を生み出す意味ある具体的な決議が実現するよう、貴国政府がご支援くださることを確信しています。人権侵害の規模、北朝鮮にいる無数の被害者の叫び、そして国連人権理事会の信用を守る必要性は、貴国政府に行動を求めています。

African Centre for Democracy and Human Rights Studies (ACDHRS)
Amnesty International
Asian Legal Resource Centre
Christian Solidarity Worldwide
CIVICUS
CONNECTAS
Citizen' s Alliance for North Korean Human Rights (NKHR)
The Committee for Human Rights in North Korea (HRNK)
Human Rights Watch
International Bar Association
International Coalition to stop Crimes against Humanity in North Korea (ICNK)
International Commission of Jurists
International Federation for Human Rights (FIDH)
Jacob Blaunstein Insitute for the Advancement of Human Rights

〔日本語訳＝ ICNK 日本チーム 加藤健氏〕

NO FENCE 声明

北朝鮮当局による核・ミサイル実験をふまえ、 あらためて強制収容所廃絶を訴える

北朝鮮当局は1月6日に核実験を実施し、また2月7日にミサイル発射を実施した。これらの行為が、日本人々を恐怖と危険にさらすだけでなく、アジアひいては世界の平和を脅かす、許されざるものであることは言うまでもない。さらにこれらの行為は、これまで重ねられてきた北朝鮮当局の軍事的挑発がすべてそうであったように、市井の在日朝鮮人への偏見を助長することによって日朝人民を分断し、また「周辺国の脅威」を口実とする日本の軍事化をもいっそう誘発するものであろう。

そして忘れてはならないのが、一連の核・ミサイル開発をはじめとする北朝鮮の先軍体制は、罪もない北朝鮮民衆に対する巨大な人権侵害によってのみ可能になっていることである。ミサイル一発を発射するためのカネがあれば、北朝鮮の国民全員に1年分の食料を提供できるといわれている。北朝鮮の軍事独裁政府は、自らの体制を維持するために、民衆を苦難のうちにおいたまま徹底的に収奪し、資源を軍事開発につぎこんでいるのである。

このような収奪にもとづく軍事体制を根底において支えているのが、強制収容所にほかならない。政府に対して批判めいたことを言おうものなら、たちまち密告され、本人だけでなく家族まで、地獄のような強制収容所に送られてしまう。その恐怖と威嚇によって、体制批判が全く封じられているからこそ、政府は民衆を先軍体制に動員できるのである。

強制収容所に送られた者は、「共和国に反逆した人間のクズ」と見なされ、いっさい人権のない奴隷労働に、死ぬまで従事させられる。今回の核実験にあたって、豊溪里の核実験場から2～3kmの地点にある16号管理所（強制収容所）の収容者が、核実験場の建設や被曝労働に動員されたとの証言がある（「Daily NK」2016年1月28日付）。危険かつ機密にふれる核実験場での労働には、強制収容所の奴隷を「使いつぶす」のが便利なのであろう。核開発と強制収容所との、かかる密接

な関連を根拠として、国際社会は 16 号管理所の調査・査察を実施すべきである。

もし北朝鮮の軍事独裁体制が終わり、民主化が実現されれば、それは日本の安全保障にとっても、明らかにプラスとなろう。日朝間で経済・文化・政治の交流が進むとともに、北朝鮮国内でも、軍事優先ではなく生活向上を求める動きが燃え上がるはずだからである。

それゆえ私たちは、日本の人々に、以下のことを理解されるよう訴えたい。北朝鮮の核・ミサイル開発は、たんに日本の安全保障問題にとどまるものではなく、罪もない北朝鮮民衆に対する巨大な人権侵害の、ひとつの現れなのだということ。あのミサイルを発射するかわりに、何百万もの北朝鮮民衆の生活を救えたはずだということ。そしてこの不合理を根底で支えているのが強制収容所であり、この廃絶を絶えず訴え、北朝鮮の軍事独裁体制を崩していかないかぎり、安全保障問題も含め根本的解決はありえないということ。

声をあげることのできない北朝鮮民衆にかわって、世界中の人々の力で、強制収容所を廃絶するために行動しよう。

2016 年 2 月 13 日

NO FENCE（北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会）

